

阿岐のまほろば

Vol. 2

戦国時代の民家跡

しもうわど 下上戸遺跡 (西条町御蘭宇) みそのう



下上戸遺跡の見学会風景

下上戸遺跡は、西条町大字御蘭宇と西条町大字助実が境を接するなだらかな丘からその麓にかけて所在する遺跡です。国道375号線バイパスの新設工事に伴って、平成5年4月から平成6年3月まで7,500m²の範囲の発掘調査を実施しました。

調査の結果、約2,000年前の弥生時代中ごろの竪穴住居跡や掘立柱建物跡、また、鎌倉時代から戦国時代にかけての掘立柱建物跡などが数多く明らかになりました。このうち、戦国時代の終わりの建物跡は、民家跡と考えられ、間取りが復元できるものです。

出土した遺物は、穀物を入れた壺や煮炊きに用いられた鍋、食べ物を盛った鉢や高杯などの弥生土器、工具としての石斧や狩猟具としての石鏃などの石器が見られます。一方、中世のものでは、

白磁のお碗や素焼きの皿、土鍋、備前焼の大甕やすり鉢、茶の湯に使う風炉や天目茶碗などさまざまな生活用品がありました。

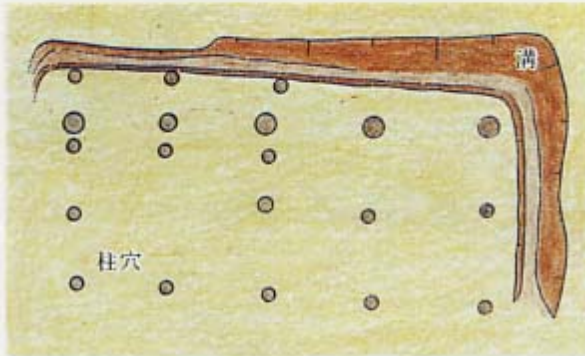


下上戸遺跡位置図 (1:50,000)

民家跡の復元

下戸遺跡で明らかになった民家跡について、その復元を行ってみましょう。

この民家跡は、緩やかな斜面を造成して建てられた南北に細長い建物跡です。柱間の数をみると、長辺が4間、短辺は2間で、広さは20畳敷き程度と考えられます。背後には溝が掘られており、この溝や柱穴の中などから土鍋や風炉、天目茶碗の破片などが出土しました。



柱穴や溝の配置図

この地域の小規模な住宅は、入口に向かって右側に土間があります。このため、右半分が土間と考えられますが、中央に柱穴があることから、これを境として奥側に台所が造られていたようです。また、入口に向かって左半分は座敷となりますが、奥側中央に柱穴が並んでいます。ここに立つ柱は位置的に屋根を支えるものではなく、壁を支え、部屋を仕切るためのものと考えられます。奥側が納戸、その他は客間といえるでしょう。さらに、民家は一般的に窓が少なく、中が薄暗いのが普通ですが、茶道具の出土から部屋に解放感をもたせ



間取りの復元図

るため濡れ縁を付けました。入口は簡単な開き戸と考えられます。

壁は、板材が高価だったため、土壁で床は掘立柱の寿命が20年程度と短いため、安価な竹すのこで、普段はその上にムシロなどを敷いて生活していたのでしょう。屋根は^{ひし}廂が一部にしかないことや、瓦が出土していないことから、切妻の葺きと考えられます。

出土遺物から、16世紀の後半、戦国時代の終わりころの民家跡と考えられます。まだ世の中は乱れていましたが、安芸地方では戦乱は既に終わっており、平和の訪れていた時代です。建物跡の規模や茶道具の出土などからかなり裕福な有力農民の屋敷であったと推測されます。



民家の想像図

この当時、京都や堺では^{ちや}侘び茶が行われるようになり、富裕な商人などの町衆と呼ばれる都市民にも茶の湯が普及していました。しかし、地方で農民が茶の湯を楽しむことは大変なことでした。特に天目茶碗は高価で、それだけでもこの屋敷の主の財力を知ることができます。

やかた

三六九 莊

しちみなが



五反田遺跡の作業風景

五反田遺跡位置圖 (1:50,000)

東広島の館跡

東広島市内では、土居屋敷跡^{どいやしき}と呼ばれている館跡が30数か所あります。敷地は多くのものが方形をなし、中に多くの建物が建てられていました。また、周囲には土を盛った土塁やその外側が堀によって囲まれています。このような施設は一般に防衛的な機能をもっていることから、全てが中世の館跡と考えられています。

ところが、この土塁を見ると、1m程度の低いものや4mを越える高いものがあります。また、敷地は30m四方から100m四方を越えた広いものもあり様々です。敷地が狭く、土塁が低いものは防御よりも周囲との区画や遮断に主眼がおかれていたようで、時期的にも近世になって築かれたものが多いようです。

さて、中世には市内に数多くの山城が築かれま

す。八本松町の樋山城跡^{つぎやま}や西条町の鏡山城跡、高屋町の頭崎城跡^{かしらざき}のように大規模なものもありますが、大半の領主たちは麓に屋敷を構えて住んでいました。彼らは土豪と呼ばれた地方の有力武士ですが、それぞれの所領をもっており、その地域に根付いて土地を管理していたようです。館跡の立地は地形に左右されますが、耕地や交通路を正面としたものが多いようです。

五反田遺跡は、このような館跡のひとつです。残念ながら、中の建物跡は消滅していましたが、この地域を管理した土豪が住んでいたことが考えられます。

館跡の分布は、八本松町や西条町に多いようですが、みなさんの家の周辺や田畑の端にもこのような土塁が残っていませんか。



五反田遺跡想像図

☆《阿岐のまほろば》とは？

阿岐は、『先代旧事本紀』巻10(国造本紀)にみられる「阿岐(安芸)国造」から取り、まほろばとは、山に囲まれた広い盆地の意味で使いました。

☆遺跡見学会のご案内

発掘調査が終了に近づいたころには、遺跡の見学会を行っています。日時などについては広報東広島に掲載しますので、ご参加下さい。

(財)東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol.2

発行日 平成6年4月22日

編集・発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター
東広島市西条町大字馬木541-1

TEL 0824-25-3880 〒724-05

印刷 今谷印刷株式会社